



循環型社会は、水道事業の責任？

水道北部のリンプラントを視察

1月22日に無所属クラブと共産党市議団が合同で、岐阜市上下水道事業部の北部プラント（岐阜市西中島6丁目3番）で稼働している「リン回収事業」と大量在庫がある「レンガ事業」の実態について視察をさせていただきました。

今回の視察は無所属クラブの服部議員の熱心な提案で企画され、共産党市議団にも声をかけさせて頂き合同（議員7人）の視察会となりました。

北部プラントを、おおう赤いレンガの壁

最近青いシートが被せられ、青い壁に見えます。プラント敷地内は所狭しと「汚泥焼成レンガ」の壁で占められています。在庫26万個と言われていたものが、少し少なくなって約25万個とのことです。浅野市長時代に、松原のりかずが「トップセールス」を提言し、だいたい岐阜県などに買ってもらったようでしたが、最近公共事業での使用もまれで製品の移動は微々たるもの。

完成品で積み上げられたレンガにひびが入り、ポロポロと三角錐状に欠けています。ひびに雨水が入り、レンガを押し開くように割るようです。当面、中部プラント等の整備に出荷の予定があるそうですが、それだけでは25万個は無くなりそうもありません。資産が時間とともに、資産価値を落としています。レンガプラント15年間稼働の結果です。この企画の後に作られてのがリンプラントです。

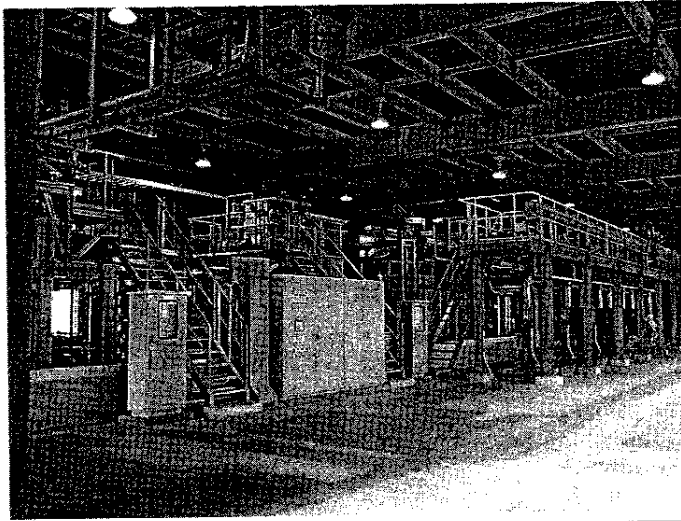
リンプラントの「メーカー保証の生産能力」がわからない？！

リンプラントは平成16年1月から、日本碍子（株）との共同研究を開始。平成22年に完成し、国土交通省のロータスプロジェクトの技術評価証明書を授与されています。特許もとっているとの説明の記憶もあります。

26年度で1億700万円を支出しているとの事ですが、収支は毎年約8千万円ほどの赤字です。目標は汚泥焼却灰1000トンからリン500トンとの説明でした。回収効率は当初20%から35%へ改善との説明。では、「メーカー引渡し時点の保証数値は何%か？」と質問しましたが、回答はありませんでした。特許を取るような機械でメーカー保証数値が曖昧なものなのではないでしょうか？ 能力が曖昧なまま引渡し書に調印されているのでしょうか？ 現実には1年目収入予定1千万円が、百万円でした。

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

リン回収施設(北部プラント内)



12

プラント内は焼却灰なのかリンなのか、階段にほこりが溜まり、大変いがらっぽい感じでした。ブルーシートもほこりまみれです。パイプ類の隙間の漏出が防げないと。労働環境は良好とは言えません。

特許料収入は1回限り？

岐阜市の後で鳥取市がリンプラントを建設しているとのことですが、特許料は建設部分だけで1回貰ったら終了。「生産にともなって岐阜市に収入があるものでない」と説明されがっかりでした。鳴り物入りの特許は何だったのか。また、他都市のプラントは方式が異なり対象外。との説明で、更にながかり。

「リンは、日本には無い。外国が輸出制限に入ると大変。」の説明で、中国の規制の動きもあったとの説明。松原のりかずが質問した。「リンプラントの特許を中国へ売りに行く」との元部長の説明があったが、「生産国で戦略物資として規制をかけて来る中国へリンプラントを売りに行くとの説明は、論理的に成り立っていたのか？」と。

また、リンの販売ルートの多様化や、汚泥処理の方式も多様化を追求する必要性を指摘しました。一方式に頼ることの危険性を指摘。財政効率意識も持つべきと指摘。循環型社会は「表彰」した国の責任であり、自治体でいえば一般会計の仕事である。



松原のりかず
☎058-253-2500